



岡田優一郎氏

東京メディカルスクール  
代表

# 定期テスト・卒業・薬剤師 国家試験対策をサポート

薬学部の進級の難関化、薬剤師国家試験の合格率の低下に対し、近年では多くの薬学部が予備校と協力を行い、国家試験対策を行っている。

今回、薬学部1年～6年の進級試験やCBT、薬剤師国家試験対策を行う薬学メディカルスクールや、医師、歯科医師国家試験対策を行う総合メディカルスクールを運営する東京メディカルスクール 代表の岡田優一郎氏に話を聞いた。

一薬剤師国家試験の難関化が進められておりますが、これは薬学部に限ったことなのでしょうか。

医師・歯科医師・薬剤師に限らず今は進級の難関化は医系大学全般に見られる傾向です。特に、歯科医師、薬剤師の国家試験は合格率の低迷が著しい現状があります。それに伴い歯学部、薬学部では、より一層の進級の難関化が進められ歯学部では6年生の在校生に対し1割台の学校も見られ、薬学部でも入学後ストレートで卒業できる生徒が3割、4割の大学も多くみられます。

一多くの薬学部が日本全国に多数存在する薬学予備校と協力して国家試験対策を行っておりますが、このことに関してはいかがでしょうか。

薬学部では、化学や物理学など高校時代からの知識が必要となる場面が多々あります。例にとると、歯学部では入学後はほとんどの科目が新規科目となり、高校から続く科目の生物では、ヒトに関する内容に限られるため入学後に暗記を積極的に行っていれば取り返すことが可能です。しかし、薬学部では推薦入試などで化学や物理が苦手な場合、低学年の物理学の進級や、有機化学など難関化していく科目についていけないということが多々あります。大学は大学教育を行う場であり、このような知識不足の学生の想定は十分とは言え

ず、各大学が予備校のノウハウを生かし、少しでも多くの生徒の実力をつけることを目的としています。

一遠方から参加を頂いている受講生もいますか。

おかげさまで講師の熱心な指導もあり、日本全国から受講を頂き、2時間の授業のために毎週北海道や新潟、名古屋などから東京にお越しいただいている生徒の方もいらっしゃいます。

一講師研修を含めどのような形で講師のスキルアップを行っているのでしょうか。

東京メディカルスクールはやる気あふれる医師・歯科医師・薬剤師が在籍し、ともに知識の共有を行い、教授テクニックや内容について日々議論を行い、向上を図っています。また、講師研修制度がありますので、未経験でも熱意がある方の応募を積極的に進めています。より満足いただけるよう講師も切磋琢磨しております。

## プロフィール

東京メディカルスクール 代表

岡田優一郎

2009年に日本大学松戸歯学部卒業・歯科医師（学部長賞を受賞）  
日本救急学会 ICLS プロバイダー、口腔セカンドオペニオン専門医、  
口腔医科学会認定医、日本アンチエイジング歯科学会認定医、日本  
旅行医学会認定医などを取得している。